

米づくり情報（NO. 10）

令和5年8月18日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

1 気象概況（アメダス観測地：伊万里）

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
8月	1	27.8	30.3	32.5	37.0	24.2	25.4	34.7	0.0	34.9	51.1
	2	27.8	29.3	32.5	33.7	24.2	26.1	38.7	131.0	33.4	20.3
	3	27.5	27.4	32.2	31.6	24.1	24.2	44.0	0.0	30.8	39.4
	4	27.1	-	31.7	-	23.7	-	46.2	-	28.9	-
	5	26.6	-	31.2	-	23.1	-	46.9	-	28.0	-
	6	26.0	-	30.6	-	22.5	-	55.9	-	32.6	-

【8月1半旬～3半旬の気象概況】

- 1) 平均気温は、平年並～2.5℃高く推移した。
- 2) 日照時間は、平年比 112%であり、多く推移した。
- 3) 降水量は、8月9日、10日にまとまった降雨があり、平年比 112%となった。

2 生育状況（8月15日）

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/㎡	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概要
夢しずく 6/2 移植 東山代町脇野	本年値	出穂期 8月4日				・平年より1日早く出穂
	平年値	出穂期 8月5日				
	平年比	-1日				
ヒノヒカリ 6/19 移植 松浦町桃川	本年値	85.5	447	13.4	38.0	・草丈は、平年並み ・茎数は、平年並み ・主稈出葉数は、平年よりやや少ない ・葉色は、平年より濃い
	平年値	87.5	445	13.9	34.9	
	平年比	98	101	-0.5	+3.1	
たんぼの夢 6/17 移植 松浦町桃川	本年値	77.4	372	13.0	41.5	・草丈は、平年並み ・茎数は、平年より少ない ・主稈出葉数は、平年よりやや多い ・葉色は、平年より濃い
	平年値	76.3	450	12.5	39.5	
	平年比	102	83	+0.5	+2.0	

※夢しずくの耕種概要は稲作情報 No.1、ヒノヒカリ・たんぼの夢の耕種概要は稲作情報 No.3 を参照。

(参考：平坦部 佐賀県農業試験研究センター 米づくり情報第7号より抜粋)

移植日	項目 品種	年次	草丈	茎数	葉齢	葉色	概況 (平年と比較して)
			cm	本/m ²	L	SPAD	
6月19日	夢しずく	本年	90.4	417	13.8	38.9	[気象] 8月7日～8月13日まで ◆平均気温…平年より0.6℃高い ◆日照時間…少ない(平年比87%) ◆降水量…多い(平年比113%) [生育] ◆草丈 「さがびより」で平年並み、「夢しずく」「ヒノヒカリ」でやや低く、「ヒヨクモチ」でやや高い。 ◆茎数 「夢しずく」「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」では多い。「さがびより」ではやや少ない。 ◆葉齢 「夢しずく」「ヒヨクモチ」でやや進んでおり、「ヒノヒカリ」「さがびより」で平年並み ◆葉色(SPAD値) 「夢しずく」「ヒノヒカリ」では高い、「さがびより」「ヒヨクモチ」ではやや高い。
		平年	94.2	392	13.3	36.6	
		平年比(差)	96	106	+0.5	+2.3	
	ヒノヒカリ	本年	80.8	516	13.4	40.5	
		平年	83.7	476	13.5	36.2	
		平年比(差)	97	109	-0.1	+4.3	
6月20日	さがびより	本年	78.9	466	13.7	36.6	
		平年	79.3	476	13.7	35.7	
		平年比(差)	99	98	±0	+0.9	
	ヒヨクモチ	本年	74.5	762	14.5	37.2	
		平年	71.9	607	13.9	35.7	
		平年比(差)	104	126	+0.6	+1.5	

3 今後の管理

1) 山間早植え水稻(5月上旬移植)

- ・乳熟期～糊熟期を迎えている。
- ・収穫1週間前までの間断灌水により子実の充実確保に努める。

2) 普通期水稻「夢しずく」

【6月上旬移植】

- ・乳熟期を迎えている。
- ・カメムシの防除を徹底するとともに、収穫1週間前までの間断灌水により子実の充実確保に努める。
- ・防除の際は、天気予報を参考に、防除直後に降雨にあわないよう留意する。

【6月中旬移植】

- ・出穂期～穂揃い期を迎えている。
- ・穂ばらみ期から穂揃い期にかけては、イネの用水要求度が最も高い時期であるため、水が切れることがないように湛水管理を徹底する。ただし、大雨が続く場合は、水尻を低く保つ。
- ・この時期は強風による蒸散の影響を最も受けやすいため、台風の接近等が予想された場合には可能な限り深水とし、強風による葉先の裂傷や籾擦れなどの被害を緩和するよう努める。

3) 普通期水稻「たんぼの夢」、「ヒノヒカリ」等

- ・ まもなく出穂期を迎える。
- ・ 最も要水量が大きい時期であるため、出穂 10 日後までは湛水状態を保つ。

《参考》出穂期の平年値

品種	移植日	出穂期	幼穂形成期（1 mm～15 mm） 穂肥施用時期目安
夢しずく	5月31日	8月5日	7月10日～18日
ヒノヒカリ	6月20日	8月26日	8月1日～9日
たんぼの夢	6月17日	8月28日	8月4日～12日

4) 共通

○主な病害虫の防除適期

病害虫名	稲のステージ 出穂前後日数	防除適期										
		-15	-10	-5	0	+5	+10	+15	+20			
紋枯病	並発生の場合	←→										
	多発生の場合	←→			←→							
穂いもち	並発生の場合			←→								
	多発生の場合			←→		←→						
カメムシ類	並発生の場合									←→		
	多発生の場合						←→			←→		

図3 紋枯病、穂いもち、カメムシ類の防除適期

○いもち病

- ・ 葉いもちの発生が見られる圃場では、穂ばらみ期の防除を徹底するとともに、発生が多いと予想される場合には穂揃期にも防除を行う。
- ・ 8月10日までのBLASTAM情報（気象条件のみによって葉いもちの発生を予測するシステム）によると、伊万里では6月8日、11日に葉いもちの感染好適条件が観測されている（好適条件が観測された1週間後に初発生や病斑数の急激な増加が予想される）。
- ・ 進展型病斑が確認された場合は、速やかにオリブライト剤等で適切に防除を実施する。（ただし、オリブライト剤の使用時期は出穂10日前まで）
- ・ 窒素過多は発生を助長するので、病斑が見られる圃場では穂肥施用量を減らすなど適切な肥培管理を行なう。



いもち病（進展型）



いもち病（停止型）

○ウンカ類




- 6/30～7/13 にかけてトビイロウンカの飛来が確認されている（表 1）。この飛来波の今後の発生予測は次のページの図 1 のとおりである。
- 今後の飛来状況および気象条件により、発生予測図は随時更新される。
- 防除時期については、今後の飛来状況や圃場条件（移植時期や品種、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量が異なるため、注意深く圃場を観察する（ウンカは稲の株元に定着します）。

【情報田ウンカ類調査結果（25 株払落し調査）】

（調査日：8/15）

品種	地域	移植日	トビイロウンカ		セジロウンカ		ヒメトビウンカ	
			成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫
ヒノヒカリ	松浦	6/19	0	2	0	4	0	0
たんぼの夢	松浦	6/17	0	0	0	8	0	1

ウンカ類幼虫の見分け方について

	若齢幼虫の体色	中～老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウンカ	白っぽい	灰白の斑紋	 : 真横
トビイロウンカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	 : 真横～やや斜め後ろ
ヒメトビウンカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色 (体側の色が濃い場合あり)	 : 斜め後ろ









		トビイロウンカ	セジロウンカ	ヒメトビウンカ
成虫		 長翅雌 短翅雌		 雌 雄
幼虫	若齢			
	中齢～老齢			

表 1 イネウンカ類のトラップでの捕獲状況（2023年）

月	日	トビイロウンカ					セジロウンカ				
		佐賀県		長崎県			佐賀県		長崎県		
		佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市
		ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	15日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	17日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	18日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	19日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	21日	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0
	22日	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
	23日	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0
	24日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	25日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	26日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	27日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	28日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	29日	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
	30日	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
7月	1日	0	12	0	0	0	0	70	1	0	0
	2日	0	0	0	0	0	0	58	0	0	0
	3日	0	15	0	0	0	0	75	0	0	0
	4日	0	4	0	0	0	0	13	19	0	0
	5日	0	19	0	0	0	1	23	31	0	0
	6日	0	3	0	0	0	0	43	0	2	0
	7日	0	4	0	0	0	2	6	0	4	0
	8日	0	14	0	0	0	0	14	1	0	0
	9日	0	3	0	0	0	1	16	6	1	0
	10日	0	0	1	1	0	0	15		0	0
	11日		2		0	0		10		0	0
	12日		2					3			
	13日		4					3			

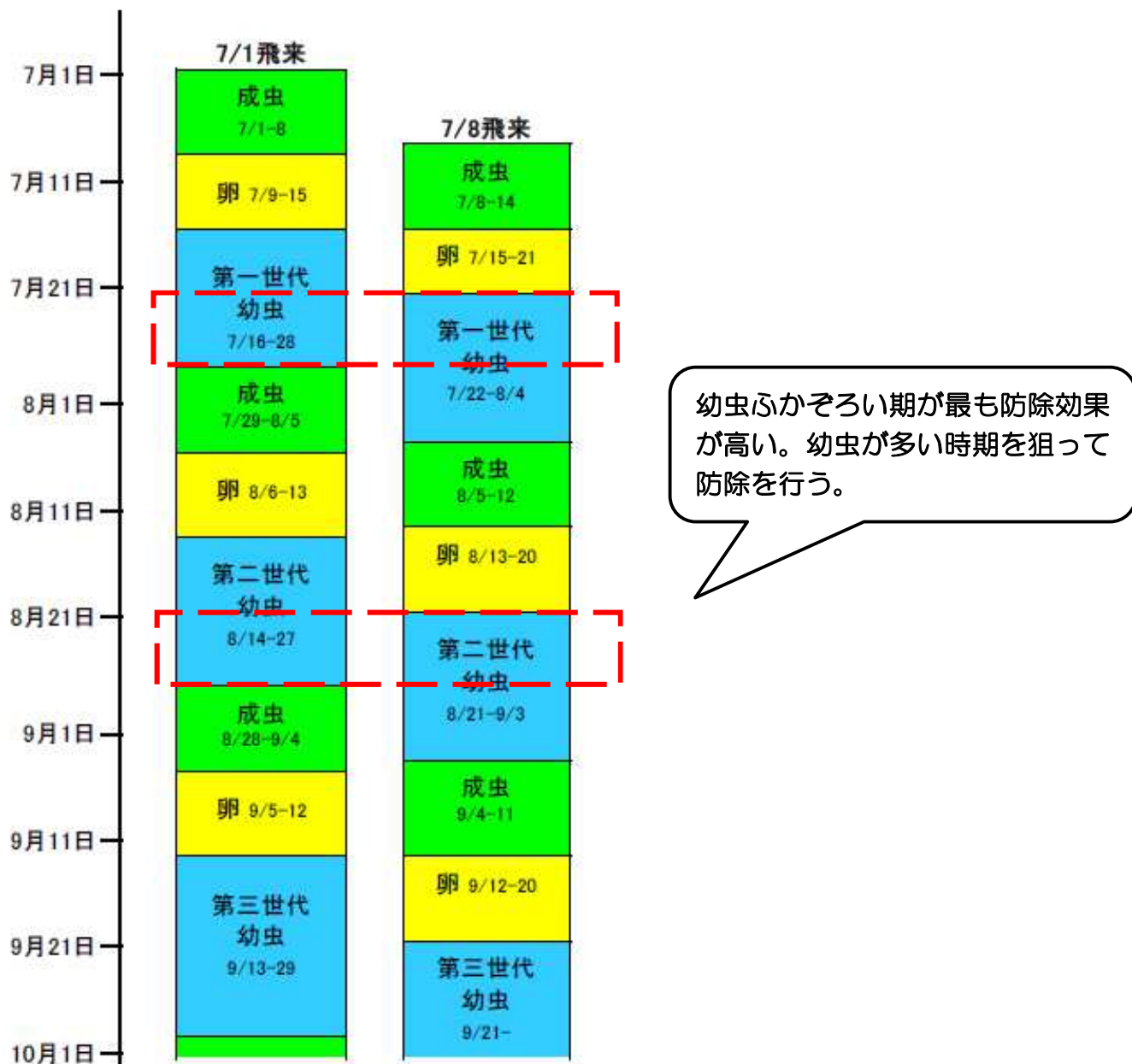
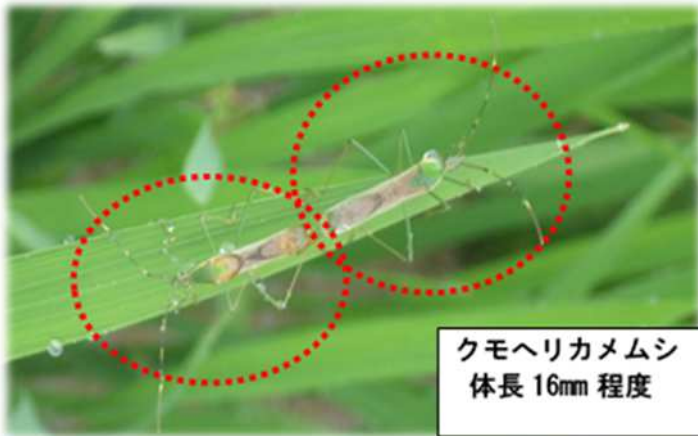


図 トビイロウンカ各世代の発生予測(第3版、2023年8月16日作成)

1. 6月30日～7月3日頃(図では7月1日)、7月7日～9日(図では7月8日)の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(8月16日以降は平年値)を基に作成した。その結果、第3版は第2版に比べ、各飛来虫のその後の発生時期(予測)は1日遅くなった。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

○カメムシ類

- 耕種的防除として、出穂 10 日前までには必ず畦畔の草刈りを終える。出穂後に行うとカメムシ類が圃場に侵入し、被害を助長する。
 - 薬剤防除としては、乳熟期（出穂期の約 10 日後）の防除を徹底して、斑点米の被害防止を図る。発生が多い圃場では穂揃い期（出穂期の約 5 日頃）と乳熟期の 2 回防除を実施する。
- ★ 多発生の目安 ⇒ 20 回のすくいとり調査でカメムシが 5 頭以上の場合



○紋枯病

- 高温年に多発する病気で、前年多発した圃場では、菌核が残り発生しやすい。
- 菌核が水に浮いて移動するため、一般的に水尻付近や風下側に発生しやすい。
- 田回りの際は、株元をよく確認し、発生が見られる場合は防除を行う。
(液剤、粉剤の場合は出穂の 20 日～10 日前が目安)
- 初発は、下部の茎に発生するが、上位に進展し、多発すると、倒伏や充実不足を招く。



令和5年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：伊万里）

西松浦農業振興センター

